

# JICS REPORT

【ジックス・レポート】

財団法人 日本国際協力システム

2010

Jan.  
No. 73

2010年1月25日【編集発行人：櫻田 幸久】  
発行：(財)日本国際協力システム  
〒162-0067 東京都新宿区富久町10番5号 新宿 EAST ビル  
Tel 03-5369-6960 / Fax 03-5369-6961  
E-mail: jics@jics.or.jp / http://www.jics.or.jp

特集

JICSの挑戦

## 紛争予防・平和構築への取り組み

1 989年の、ベルリンの壁崩壊をきっかけに長く続いた冷戦が終わり、世界は平和への一步を踏み出したように見えました。しかしその後、政治、経済や文化のグローバル化に伴い、貧富の格差や民族・宗教対立を原因とする紛争・テロ、環境問題など、国際社会は新たな課題に直面することになりました。これらの課題はさまざまな要因が絡み合っており、地球的規模の問題ともいわれています。なかでも紛争やテロは深刻な問題であり、これらを予防し平和を構築することが、国際社会全体の持続可能な発展と平和のために強く求められています。

国際社会の一員として、日本は「平和の構築」をODA(政府開発援助)の重点課題と位置づけ、さまざまな支援を行っています。

### 【平和構築への日本の取り組み】

国連開発計画(UNDP)の『人間開発報告書2005』によると、「いったん武力紛争から抜け出した国の半数が、5年以内に再び戦争状態に逆戻りしている」と報告されています。なかでも開発途上国における紛争は、政治的な対立のみならず、貧困もその大きな原因であると考えられています。貧困層が政府に対する不満を募らせ、反対勢力に加わることで国内紛争を助長する可能性も否定できません。そのため、少しでも貧困が減り、開発途上国の人々の生活が改善されることが重要だと考えられています。このような背景のもとに、紛争の予防や解決のために、開発援助が果たすべき役割がクローズアップされるようになってきました。

日本はODA大綱、新ODA中期政策において、「平和の構築」を重点課題の一つとして位置づけています。平和の構築のために、無償資金協力、技術協力、有償資金協力からなる二国間援

### CONTENTS

- P-1  
4 **【特集】**  
**JICSの挑戦**  
紛争予防・平和構築への  
取り組み
- P-5 **【援助の現場】**  
インフルエンザ支援と地雷の地を見る  
JICS理事長 佐々木高久
- P-6 **【TOPICS】**  
**イラク復興支援**  
救急車引渡し式を開催  
.....  
**防災・災害復興支援無償【グアテマラ】**  
平木評議員がスタン災害  
復興支援のサイトを視察
- P-7 **【INGO紹介】**  
**DIFAR(ディファル)**  
ボリビアで生ゴミ堆肥化と  
自然にやさしい乾燥型トイレを
- P-8 **【JICSのうごき】**  
JICS NGO 支援事業活動報告・  
意見交換会を開催  
.....  
イベントへの出展  
.....  
記念品、感謝状をいただきました
- P-8 **【在外勤務者リレーエッセイ】**  
**アンゴラ 目に見える発展**  
JICA 南アフリカ事務所出向中  
三明 昌仁
- P-8 **【お知らせ】**  
日本国際協力システム年報2008  
発行



カンボジアの小型武器破壊式典

助と、国際機関経由の支援を組み合わせ、国際機関や他国政府、NGOなどとも協力してさまざまな平和構築支援を行っています。

2002年度には「紛争予防・平和構築無償」\*が新設されました。この支援では、対象地域の状況に応じて紛争の予防から、紛争の終結を促進する働きかけ、さらには紛争終結後の平和の定着や国づくりのための支援までを、継ぎ目なく行うことを目的としています。

また、2007年度には「平和構築分野の人材育成事業」を開始し、多様化・複雑化する平和構築の現場ニーズに即した実践的な能力を備えた人材の育成を行っています。

\* ノン・プロジェクト無償資金協力の一部の予算を活用

## 【 JICSの役割 】

紛争予防・平和構築無償に関して JICSは、2002年度から、途上国政府との契約に基づき、調達代理機関として、資金管理を含む実施監理を行っています。JICSが近年関わった紛争予防・平和構築無償資金協力の案件をご紹介します。

### カンボジアの 平和の実現を目指して

#### カンボジア

#### カンボジアにおける平和構築と 包括的小型武器対策プログラム

カンボジアでは、20年以上の内戦により残されたたくさんの小型武器が、犯罪などに使用され、国内の治安を脅かしていました。この問題解決を支援するため、日本は初の紛争予防・平和構築無償案件として2003年4月から「カンボジアにおける平和構築と包括的小型武器対策プログラム」(フェーズ1)の支援を実施、その後、2005年からはフェーズ2を実施しました。

JICSは、これらの案件の実施監理機関として、2003年4月に日本人スタッフを含む「日本小型武器対策支援チ

ーム(JSAC: Japan assistant team for Small Arms management in Cambodia)」を発足させ、専門家派遣、物資調達、資金管理などを実施しました。カンボジア国内にJSACプロジェクト事務所を設置し、フェーズ1、フェーズ2にわたって、住民への啓発活動を通じた小型武器回収など、5つのプロジェクトを実施しました。

#### JSACが実施した5つのプロジェクト

- ① 平和のための小型武器削減と開発プロジェクト(WDP)
- ② 小型武器管理・登録支援プロジェクト
- ③ 小型武器破壊プロジェクト
- ④ 意識向上プロジェクト
- ⑤ 国家委員会支援プロジェクト

壊れた小型武器でも、同じものが3丁あれば新しく武器を作ることができるといわれています。こうした再生産を防ぐため、そして、平和の必要性を現地住民に訴えるため、回収した小型武器を焼き払う破壊式典を12回開催しました。

2007年9月には、集めた小型武器を材料に用いて作られたカンボジア人アーティストらの手による平和のモニュメントが完成し、カンボジアに引き渡されました。モニュメントは市街地にある公園の中央に設置され、平和祈願のシンボルとして市民の生活空間の一部となっています。

そして、このプログラムの締めくくりとして、2008年2月にこれまで建設・調達した施設や資機材の引き渡し式典を開催しました。この式典では、JSACの取組みに対して、州知事からJSACのスタッフへ勲章が授与されました。

#### イラクの治安回復のために

#### イラク

#### ムサンナ県警察訓練プログラム

2003年4月のフセイン体制崩壊以



鑑識の訓練をする警察官たち

降、イラク復興における最優先課題である治安の回復を目指し、米英が中心となり治安分野の改革・再構築が行われてきました。その一環として、英国が2004年4月からイラクの南東部3県で実施していた警察官の訓練プログラムのうち、当時陸上自衛隊が駐屯していたムサンナ県の訓練プログラムに関して、日本は紛争予防・平和構築無償を実施しました。

このプロジェクトでは、ムサンナ県の警察関係者に対して、警察官としての心構えや民主国家における警察官の役割といった基本的事項や、鑑識、捜査、取調べ、法務、本部体制整備などの高度な捜査知識・技術に関する訓練が実施されました。この支援では、ムサンナ県警察官の3分の1にあたる累計2,563人に訓練が実施され、警察官の業務遂行能力だけでなく、職務意識が高まったと報告されています。

#### 新たなプロジェクト

#### パレスチナ

#### ジェリコ市内道路整備計画

日本は、パレスチナ自治政府の中東和平に向けた努力を最大限支援する方針としています。2006年7月、日本は共存共栄に向けた中長期的な取り組みとして、「平和と繁栄の回廊」構想を提案しました。これはODAを活

用してイスラエル、パレスチナ、ヨルダンの域内協力を実施し、ヨルダン渓谷地帯の経済開発を進めることを目的としたものです。

ヨルダン川西岸地区東の東側にあるジェリコ市は、パレスチナとヨルダンの国境に位置する交通の要衝ですが、市内の道路整備が遅れており、約60%が未舗装となっています。市内道路の街灯や歩道の整備も20%以下に留まっており市民生活、商業活動や観光に支障をきたしています。このため、パレスチナ自治政府から日本に対しジェリコ市の生活道路改修などの協力が要請されました。日本はこれを「平和と繁栄の回廊」構想に合致する案件として、紛争予防・平和構築無償による支援を決定し、2008年12月、日本政府とパレスチナ自治政府の間で交換公文(E/N)の署名が行われました。

JICSは2009年2月5日、パレスチナ自治政府の地方自治庁と調達代理契約を締結し活動を開始しました。ラマッラにプロジェクト事務所を置き、現地で施工管理コンサルタントや施工業者の選定および資金管理を含めたプロジェクトの実施監理を行っています。このプロジェクトでは、61路線20.42kmのアスファルト舗装整備(12路線4.99kmは修復)、10路線9.10kmの街灯整備、5路線2.87kmの歩道整備、ダンプトラック、タイヤローラーなどの



道路整備現場を業者に説明する市のエンジニア

道路維持管理用機材の供与が行われます。

### スーダン ジュバ職業訓練センター

スーダンは北をエジプト、南をケニアに接した広大な国で、面積は日本の7倍、アフリカ大陸最大の国です。「アフリカのパン籠」と呼ばれるほど潜在的農業生産力がある国ですが、1950年代から2005年1月に南北和平合意(CPA)が締結されるまで、断続的に50年にわたって内戦が継続し、大きな傷跡を残しています。

南部スーダン政府は、復興に向けて努力していますが、資金が絶対的に不足している状況です。こうしたなか、国際社会は南部スーダンの平和の定着に向けた支援を積極的に行っており、日本もその一翼を担っています。

南部スーダン政府のあるジュバ市は、ナイル川に面

した町です。もともと大きな町ではなかったため、現在、急ピッチでインフラ整備が進み、首都としての街づくりが進んでいます。こうした復興活動に伴い、建築や自動車整備などの技術者の需要が高まっていますが、内戦の間、技術者たちは十分な訓練を受けていないことから、技術向上のための人材育成が緊急の課題となっています。

そこで日本政府は、2006年からジュバ職業訓練センターにおいて独立行政法人国際協力機構(JICA)による技術協力プロジェクト「基礎的技能・職業訓練強化計画」を実施しました。そして2008年7月、スーダン政府はプロジェクトの効果をより一層高め、持続させるために、同センターの施設・機材の改善を目的とした無償資金協力を要請し、2009年6月に紛争予防・平和構築無償による、「ジュバ職業訓練センター拡張計画」の実施が決定しました。

JICSはこのプロジェクトに関して、2009年10月2日、南部スーダン政府と調達代理契約を締結のうえ、ジュバ市に事務所を設置し、活動を開始しています。JICSはこの案件に関して、①センターの校舎建設と改修のための



ジェリコ市の道路整備



ジュバ職業訓練センター

競争入札による施工会社の選定・契約、②センター向けの職業訓練用機材の調達、③資金の適正な管理などを含むプロジェクト全体の監理を実施していきます。

### カンボジア 2009年度 カンボジア地雷除去活動強化計画

カンボジアには紛争終結後20年近

く経った現在でも400~600万個の地雷が埋設されているといわれており、これらの処理はカンボジア地雷対策センター (Cambodian Mine Action Centre : CMAC) が中心となって行っています。CMACは近年、年間約27km<sup>2</sup>ほどの地域地雷除去を行ってきましたが、2020年までに地雷地帯をなくすという大目標のもと、年間除去面積を33km<sup>2</sup>以上にするべく取組

みを強化しています。

この目標を達成するためには、地雷除去機などのさらなる導入や除去活動にかかるさまざまな経費の確保が必要となりますが、そのための資金が不足していることから、日本に支援の要請があり、今回の案件実施が決定しました。JICSは2009年11月26日にCMACと調達代理契約を締結し、調査や役務・機材の調達、プロジェクト全体の進捗監理を担当しています。

今回の案件では、バタンバン州の高度地雷汚染地域の対人地雷除去に必要な地雷除去機などの調達に加え、地雷除去活動支援、さらには農地整備や農業訓練などの住民支援も行います。地雷の除去のみでなく、安全になった土地の利用を促進することで、地域の経済的・社会的開発が進み、生活水準が改善されることが期待されています。

## ● 日本の平和構築支援

### 平和構築分野での日本の取組み

現場における取組み		知的貢献	人材育成
<b>国際平和協力の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国連PKOなどへの積極的な貢献</li> <li>● 国際平和協力に関する法的枠組みの整理</li> </ul>	<b>ODAの充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ODA大綱の重点課題として積極的に推進</li> <li>● さまざまな援助手法と体制の整備</li> <li>● 機動的・効率的な援助の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平和の定着と国づくり、オーナーシップの尊重、人間の安全保障などの理念・アプローチの深化</li> <li>● 国連平和構築委員会などにおける知的リーダーシップの発揮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アジアにおける平和構築分野の人材育成事業の開始</li> <li>● 平和構築人材育成関係省庁連絡会議の設置</li> </ul>

### 政府開発援助による平和構築支援 ~継ぎ目ない支援を目指して



出典：2008年版 ODA白書「日本の国際協力」

プロジェクト現場を視察した理事長  
によるレポートをご紹介します

# インフルエンザ支援と地雷の地を見る

## 近代化された備蓄倉庫

2009年12月14日から6日間、シンガポールとカンボジアで、JICSが調達代理業務を行っているプロジェクトの現場視察や関係機関との意見交換などを行いました。

1つめのプロジェクトは、シンガポールを拠点とした「2007年度ASEF(アジア欧州財団)日本信託基金鳥インフルエンザ対策支援」です。このプロジェクトでは、世界的な大流行をみた新型インフルエンザへの対応を目的として、タミフルなどの医薬品や防護用品など必要な物資を輸送の拠点となるシンガポールの倉庫に備蓄し、必要に応じて主にASEAN諸国とその近隣国を対象に緊急放出する体制を構築しています。

現地視察を行った備蓄倉庫は、物資の搬入搬出がコンピューターで管理され、24時間対応可能という大型設備で、新型インフルエンザ対策に関わる今回の物資は、品質保持のため温度と湿度が一定に維持された一画に、そのまま運搬可能な状態で整然と保管されていました。現場を見るまでは、波止場にある倉庫群のようなものを想像していましたが、「百聞は一見にしかず」の思いでした。

## 地雷除去地を見る

また、カンボジアでは「カンボジア地雷除去活動強化計画」(紛争予防・平和構築無償)の現場を視察しました。プロジェクトサイトである地雷除去現場は、タイと国境を接するバットアンバン州にあり、首都プノンペンから北西へ約320キロの位置にあります。特にバットアンバン州の中心地から地雷除去現場までの約20キロは未舗装道路で、前の車が巻き上げた砂煙でまったく前が見えないほどのひどさでした。そしてわき道にそれて凸凹道を数キロ、さらに灌木地帯の道なき道を行き現場に到着。そこでは、人による地雷探知、犬による地雷探知、3種類の地雷除去機や灌木除去機による作業を視察しました。視察の際には防護具、防護ヘルメットを着用しましたが、それらはかなり重量があり、カンボジアは涼しい時期に入っていたにもかかわらず、ジトジトと汗がたれ落ちるような感じでした。

現場で対人地雷と対戦車地雷の爆破デモンストレーションが行われましたが、対戦車地雷の強烈さは当然としても、対人地雷でさえかなりの硝煙が舞い上がっていたことが印象的でした。

1992年に地雷・不発弾対策



地雷探知犬とトレーナーたち

が開始されて以降、除去が完了したのは汚染地域の15%程度とのこと。現在でも400~600万個の地雷や240万個以上ともいわれる不発弾が埋まっているといわれています。CMAC(カンボジア地雷対策センター)のヘン・ラタナ長官より、オタワ条約のもとでこれまで10年間地雷除去を行い、さらに10年間期間が延長された旨説明を受けましたが、地雷除去は根気のいる気の遠くなるような作業であり、職員の士気を維持するのは大変な苦勞であろうと思いました。

視察の帰路、JICSが実施監視機関としてその実施に関わった2005年度と2007年度の研究支援無償の現場が稲作の水田になっているというので立ち寄りてみたところ、プノンペンからバットアンバンへの街道沿いに広がる穀倉地帯と遜色のない稲が実っており、これから始める紛争予防・平和構築無償プロジェクトの成果が楽しみになりました。

## 任務を果たすために

地雷除去活動に関連して、コンボンチュナン市にあるトレーニングセンターで、地雷除去員の研修や地雷探知犬の訓練を見学しました。地雷除去員の新人研修コースは6週間で、試験にパスすると現地に派遣されるとのこと。研修コースは約50種類、10週間に及ぶものもあり、地雷除去員だけでなく兵士・警察官等の中間研修も多いということでした。見学した授業は約30人が受講。人々の安全と国の平和・発展のため、死と隣り合わせの危険な任務を果たすべく真剣に授業を受けている除去員の方々には頭が下がる思いでした。

探知犬はシェパードの一種で、ボスニアから生後4~5カ月の犬を輸入し訓練を行っているとのこと。暑さには強くない犬種ということで、炎天下で訓練中の探知犬の待機場所には日傘が立てられ、その日陰にはむしろが敷かれていました。子犬の頃から厳しい訓練を積み、炎天下での過酷な環境で除去員とともに命がけの任務を行う地雷探知犬の運命に同情を禁じませんでした。

今回の視察により、このプロジェクトがカンボジアの安定・発展に果たす役割の重要性を再認識し、同時に、現場

における緊張した雰囲気を実感できたことはきわめて有意義でした。今回のプロジェクトは、地雷を除去するだけでなく、地雷を除去した土地で農作業を行う農民を支援するプロジェクトも含まれており、その成果が実ることを祈らずにはおれませんでした。

イラク復興支援

# 救急車引渡し式を開催

日本は2003年から、イラクの復興と新たな国づくりに向けたさまざまな支援を行っています。JICSは、なかでも日本がイラクに対して直接行う無償資金協力プロジェクトの21案件に関して、イラク政府の調達代理機関として、入札による納入業者の選定、契約締結手続き、納入管理等を含む進捗管理と資金管理などを担当してきました。そして、当初計画されていた機材調達や建設・改修工事はすべて完了し、現在は各プロジェクトの

残余金による追加調達や追加工事を行っています。

2009年9月に、残余金で追加調達した高規格救急車50台を含む312

台の救急車がイラクに到着したため、10月29日、

バグダッドで引渡し式が開催され、

JICSから大島事務局長と工藤業務第一部企画・管理課長が出席しました。

今回の救急車は2005年1月に決定された「イラク救急車整備計画」の残余金で購入した追加調達分で、すでに納入された救急車700台と同様、保健省を通して全国の病院に配備され、傷病者の緊急移送に使用される予定です。

引渡し式では、保健省アメール・アル・クザイ上級副大臣から保健分野への援助と今回の救急車供与に対する謝意が表されました。そして、日本側を代表して高橋臨時代理大使から、プロジェクト実施に尽力した関係者に対するねぎらいの言葉と、プロジェクトによりさらにイラクの医療体制が改善されることへの期待が述べられました。



新たに調達された救急車



救急車の引渡し式

## 防災・災害復興支援無償 [グアテマラ]

# 平木評議員がスタン災害復興支援のサイトを視察

2005年10月にグアテマラで発生した大型の熱帯低気圧スタン(STAN)による被害に対する復興支援として、日本は防災・災害復興支援無償の第1号「熱帯低気圧スタン災害復興支援計画」を実施しました。これは、灌漑施設、橋梁、上水道施設の再建を行うプロジェクトで、JICSはグアテマラ政府の調達代理機関として、施工

会社選定のための国際競争入札、契約締結、進捗監視、プロジェクトの資金管理業務を実施しました。

2009年2月



調査による水利組合員へのインタビュー。中央が平木評議員



道路局へのインタビュー

のプロジェクト終了を受け、JICSは11月、調達業務のプロセスを自己評価するため、平木評議員を団長とする調査団を派遣しました。

今回の調査では、再建された各施設を視察するとともに、実施機関である農牧省灌漑局、水利組合、通信・インフラ・住宅省道路局、ケツアルテナン

ゴ市水道公社、市長と面会し意見交換を行いました。また、施工会社にもインタビューを実施し、JICSの業務の進め方について聞き取りを行いました。

施工会社からは、「橋梁再建プロジェクトの入札に参加したが、入札条件を満たしておらず失格となった。しかしJICSの公正・透明、毅然とした入

札を見て、ぜひ一緒に仕事がしたい」と思い、上水道プロジェクトの入札にも参加した」という意見がありました。

また今回、ケツアルテナンゴ市長より、市の上水道関連施設に関する日本の援助に対する感謝として、市内に「日本プラザ」という公園を建設したと説明を受けました。調査団がその公園を訪れたところ、銘板にこの案件に携わったJICS職員の名前も刻まれており、責任の重さを再認識する機会にもなりました。



「日本プラザ」公園

## 【NGO紹介】

このコーナーでは、これまでにJICSが支援した団体より、事業実施状況について報告していただきます。

## ボリビアで生ゴミ堆肥化と自然にやさしい乾燥型トイレを 【DIFAR (ディファル)】

2007年にJICSの支援を受け、現地でスタッフが使用するバイク1台と事務所用のパソコンを購入し、団体基盤の強化を行いました。

DIFARは、有機ゴミのリサイクル堆肥化と自然にやさしい乾燥型トイレの普及を進めています。活動地はコアラパ市を拠点として21村、支援の対象は500家族に及びます。活動地への移動は、未舗装の山道や川を越える悪路がほとんどで、往復100キロの遠方もあり、車やバイクなどの交通手段は、活動を円滑に進める

JICS NGO支援事業：2007年度

対象国：ボリビア

支援事業の内容

現地コミュニティでのトイレ建設による衛生状況改善を目的とした活動のため、バイクなどを購入しプロジェクト実施体制を強化する。

ためには欠かせません。現在は、新しいバイクで活動地への移動がスムーズにできるようになりました。

トイレやゴミ分別など地域住民の生活に密接に関わる活動なので、その都度、直接の受益者である住民と現地市役所とDIFARが、3者合意のもとで意思決定を行っています。そのため、移動がスムーズになったことは、プロジェクトの成果にも大きく影響しています。建設後も何回も家族を巡回訪問し、トイレの使用状況を確認し、相談を受けるなど、アフターフォローにも重点をおいています。

生ごみリサイクル堆肥化プロジェクトは2007年から開始しましたが、現在約400家族の参加があり、希望者はまだ増えています。さらに市役所と連携し、多



堆肥を使って野菜を作っている家族の畑

くの住民の参加を促していく予定です。住宅地域のゴミ分別・回収・堆肥化というシステムはボリビア国内でも例がなく、他の市からの関心が高まっています。今後はトイレのアフターフォローと、生ゴミリサイクル堆肥化プロジェクトの内容の充実を目指していきたいと考えています。

### DIFAR (ディファル)

ボリビア東部のサンタクルス県で協力隊員OBが始めたNGO。活動を支えるのは日本国内の家族、親戚、知人たち。ボリビアの人々の生活向上を目指し、現地の人たちが望むプロジェクトを現地市役所と協働で実施している。



## リレーエッセイ No.15

### アンゴラ 目に見える発展

三明 昌仁

JICA南アフリカ事務所出向中

今、アンゴラにきています。ギニア湾岸のほぼ曲がり角に位置し、アフリカで第2位の石油産出量とダイヤモンドなどの豊富な地下資源を誇るこの国は、ポルトガル植民地からの独立後、27年にわたる内戦に苦しんできました。

JICAの事務所がないアンゴラの技術協力案件を、私はJICA南アフリカ事務所から出張ベースで担当しています。

内戦終結から7年を経過した今、この国では戦災復興のステージを乗り越え、さらなる経済発展を目指して、政府も企業も国民も躍りになっている様子を垣間見ることができます。出張のたびに目に見える発展を遂げている姿には、いつも驚きを禁じえません。

例えば首都ルアンダの湾岸地区の夜景は、続々とビルが増えるため、見るたびにその輝きを増しています。アンゴラへの玄関口であるルアンダ空港でも、書類の省略などによる入国手続きの簡易化が進んでいます。今や待合室に冷房も入り、赴任直後に経験した大混雑に比べると、かなり快適に通過できるようになりました。

私の任期ははや半分を過ぎましたが、これからもこの急速な発展に驚きを繰り返すのだらうと思います。そして任期を終えて数年を経たとき、この国の変わった姿を、また見られたら面白いだろうと、今からすでに楽しみにしています。



発展するルアンダ港を望む

## JICSの うごき

### JICS NGO支援事業活動報告・意見交換会を開催

2009年9月15日、JICS NGO支援事業の活動報告会・意見交換会を開催しました。報告会では2007年度の事業対象団体のうち8団体が参加し、団体概要、JICS支援で実施した事業や成果などを報告し、有識者、審査委員、関係者が質問やコメントをしました。

意見交換会では、それぞれの団体が抱える問題点や運営上苦労していることを話し合いました。JICSでは、今後も社会



意見を述べる有識者

貢献活動の一環として、国際協力NGOへの支援を継続していきます。

参加団体：NPO法人アフリカ地域開発市民の会、NPO法人エース、NPO法人えひめグローバルネットワーク、NPO法人開発と未来工房、NPO法人国際子ども権利センター、ディファル、NPO法人名古屋NGOセンター、NPO法人道普請人

(五十音順)

### イベントへの出展

JICSは、2009年10月3日、4日に日比谷公園で行われたグローバルフェスタ JAPAN2009に出展しました。そして初めての試みとして、職員が業務や仕事の



にぎわうJICSブース（グローバルフェスタ）

うえで感じたことなどを自分の言葉で説明する「JICS職員のお仕事説明会」を、2日間で計6回開催しました。ブースには300人を超える方々にお越しいただきました。

その他にも以下のイベントに出展し、ODAの目的や仕組み、JICSの位置づけ、JICSが行う調達業務などについて説明しました。

- 2009年11月14日、国際協力キャリアフェア（こまばエミナース）
- 2009年12月17日・18日、マイナビ国際派就職EXPO2009（東京ビッグサイト）

### 記念品、感謝状をいただきました

グアテマラの防災・災害復興支援無償「熱帯低気圧スタン災害復興支援計画」が完了したことを受けて、ケツアルテナンゴ市長バリエントス氏より記念の盾をいただきました。このプロジェクトでJICSは、猛烈な熱帯低気圧スタンによって甚大な被害を受けた上水道施設、橋梁、灌漑施設の再建工事の調達代理業務を実施しました。今回いただいた記念の盾は、このプロジェクトで実施したケツアルテナンゴ市の上水道施設の再建に関して、市長からJICSに対して謝意が示されたものです。

また、イラク復興支援の一環として実

施され、JICSが調達代理業務を務めた「モスル水力（第一）発電所復旧計画」に関連して、イラク北部地域電力局長から感謝状をいただきました。このプロジェクトでは、モスル市にあるイラクで最大の水力発電施設の一部改修を行いましたこれにより約52万世帯への安定的な配電が可能となり、地域住民の生活環境の改善につながりました。



ケツアルテナンゴ市長から贈られた盾

## お知らせ

### 日本国際協力システム年報2008発行

JICSの2008年度事業をまとめた「日本国際協力システム年報2008」（和文版・英文版、各60頁）を発行しました。JICSのホームページにPDFデータも掲載していますので、ぜひご覧ください。

[www.jics.or.jp/soshiki/annual\\_report.html](http://www.jics.or.jp/soshiki/annual_report.html)

